

# 教育長室だより

第 33 号

2022.4.13

温かい春の陽光が降り注ぐ中、新学期が始まりました。進学や進級で学校の環境が一新され、新鮮な心持ちで子どもたちは登校しています。年度替わりは子どもたちの長い学校生活の一番の節目です。この少しの緊張感とわくわく感を大事にしたいものです。



コロナ禍での様々な制限が、学校生活に不自由さをもたらしてもう2年が過ぎました。対策も板に付き、感染者への人権侵害も少なくなってそれなりにwithコロナの生活に近づいているように思います。

しかしまだ終息には至っておらず、変異株の亜種の広がりも懸念されています。

子どもたちの感染危機は現在およそ二つの点が注目されています。一つは幼い世代、つまり幼児から小学生低学年の世代での感染の拡大です。これは感染の危機意識を持ちにくい世代の感染で、周りの大人の心配の種になっています。もう一つは運動部活での感染です。高校生の運動部活、特に屋内競技での感染がクラスターの発生などに現れています。運動部活では活動後に集団で飲食の機会を持つことも多く、これも大きな感染原因になっているようです。



今回は学校で学ぶ教科の中の「社会科」について考えてみます。

学校では様々な教科学習が行われています。国語、算数・数学、社会、理科・英語体育…etc。それぞれの教科の特性を活かして、知識や思考力、感性や健康、様々な技能などの社会人の基礎を養っています。皆さんはこの中でどれが重要だと考えますか。



日本の学校教育は外国から見たとき、“日本型学校教育”としての特徴が注目されています。それは掃除をしたり、学級会で話し合ったり、全校で集会活動をしたりなど、いわゆる教科学習ではない分野の活動があることです。多くは「特別活動」という分野にくくられる学習です。これは日本型教育が単に学力を身に付けさせるだけでなく“全人格的”に育てることを目指していることの現れです。



わたしは教員時代に小学校社会科を研究教科としていました。皆さんは社会科にどんなイメージを持っているのでしょうか。日本列島には山地が多いというような地理の知識、鎌倉幕府がいつ誰によってできたかというような歴史の知識などが真っ先に浮かぶのではないのでしょうか。実は社会科は戦後の昭和22年に始めて登場した教科なのです。戦前にも地理や歴史（国史や西洋史・東洋史など）といった教科はありました。戦後誕生した社会科はこういった地理学や歴史学の下請けのような教科ではなく、社

会で生きていくための社会認識（社会とはどういうものか）の基礎を養う教科として誕生しました。国語→言語学・文学、算数→数学、理科→物理学・化学・生物学・地学ほか、と言ったようにほかの教科が上位の学問につながるのとは少し違います。社会科にも地理学や歴史学、政治学や経済学といったような上位の学問につながっているはずだと思いませんか。でもそうではないのが「社会科」誕生の事情です。

○

昭和22年の秋に東京で試みに初めて行われた社会科の授業は“ごっこ活動”でした。「郵便ごっこ」という“授業”でした。子どもたちははがきや手紙を出す人や郵便局の人になって郵便物を届ける“ごっこ”に夢中で取り組んだと言います。当時の文部省の役人(教育学者)は「これはいける」とつぶやいたと言われています。

やたら規律だけを重んじた戦前の教育とは全く違った子どもの動きがありました。このときの学習原理が「経験主義」と言われるもので、アメリカの教育学者デューイの理論をバックボーンとするものでした。

○

しかし、これ以降社会科は様々な変遷をたどります。経験主義だけでは知識が身につかないと言う批判も有力となり、知識を構造的に教える方向に大きく方針が振れたり（昭和30年の学習指導要領）、再び経験や体験を重んじる方向に振れたり（平成元年の学習指導要領：生活科の新設）、紆余曲折を経てきました。社会科がどんな教科なのかについてどの教科よりも議論百出の教科となりました。

○

最近、テレビのバラエティー番組でおもしろい問答がありました。

「あなたは釣り堀で、魚をあげると言われるのと、魚の釣り方を教えてあげると言われるのと、どちらがいいですか。」というものでした。その場で女性タレントが「わたしは釣り方を教えてもらう方が良いかな。」と答えていました。

実はこの議論には教育でも重要な意味があります。先の問答を次のように言い換えてみます。「知識を与えるか、知識の獲得の仕方を身につけさせるか」です。

特に社会科でこの議論の意味を考えてみます。

○

子どもたちが社会的知識を獲得する際にどのような活動を通して獲得するかということが問題になります。資料を探す、見学に行く、インタビューをするなど様々な活動がこれまで試みられてきました。そのときに、学習活動の結果としての獲得した知識が重要なのか、知識を獲得する際の活動の仕方が重要なのかと言う問題です。

どちらも重要ですよと言ってしまえばその通りでしょう。釣った魚も身に付けた魚釣りの技術もどちらも重要です。

さて、このことを日々の子どもの生活と併せて考えてみてほしいというのが今回のわたしの提案です。